

京都光華女子大学における EMとIRの取り組み

神戸大学 評価・IRシンポジウム
「大学に求められるIR機能の実現に向けて」 事例報告

京都光華女子大学 情報教育センター/EM・IR部
阿部 一晴

本日本話すること

- ▶ なぜEM（IR）を導入することになったのか
- ▶ EMを含め、これまでどのようなIR活動を展開してきたか
- ▶ IR活動を展開する際、どのような課題があり、それを打破しているか
- ▶ 課題や問題点をどのように大学経営に反映しているのか

京都光華女子大学

1940年 光華高等女学校として設立
真宗大谷派（東本願寺）宗門校
「仏教精神に基づく女子教育の場の実現」
が建学の精神

幼稚園・小学校・中学校・高等学校を併設

大学

人文学部

文学科

日本語日本文学専攻
国際英語専攻

心理学科

キャリア形成学部

キャリア形成学科

健康科学部

健康栄養学科

看護学科

短期大学部

ライフデザイン学科

こども保育学科

京都光華のエンrollment



京都光華女子大学TOP > 京都光華のエンrollment

KYOTO KOKA ENROLLMENT

入学前から卒業後までトータルでサポート

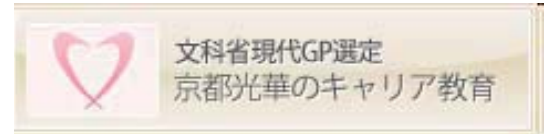
「勉強は難しいのかな?」「希望の仕事に就くには何を学べばいいの?」「資格を活かせる仕事に就きたい!」など、入学前から在学中、そして卒業後まで不安は人それぞれです。本学では、その不安をできるだけ多く取り除き、輝く未来を手に入れられるよう、大学全体をあげて学生一人ひとりをしっかりサポートしています。

【京都光華のエンrollment】とは本学独自の総合支援体制です。
「京都光華のエンrollment」では、学生満足度100%を目指し、在学中の学習面・生活面はもちろん、入学前から卒業後までを一貫してサポートします。学部・学科での学びとともに、キャンパスライフ全般を支援するエンrollmentを通し、皆さん一人ひとりの確かな成長を約束します。

<http://www.koka.ac.jp/enrollment/>

本学が選定を受けたGP

▶ 現代GP 平成19年度選定



「学生個人を大切にしたキャリア教育の推進」

本学がこれまで取り組んできたキャリア教育および就職支援への姿勢と実績が評価されて、選定された。本学ではこれを受けて、文部科学省の補助事業として、さらに強力なキャリア（形成）教育と（就職などの）キャリア支援を推進している。

▶ 学生支援GP 平成20年度選定



「学生個人を大切にした総合的支援の推進」

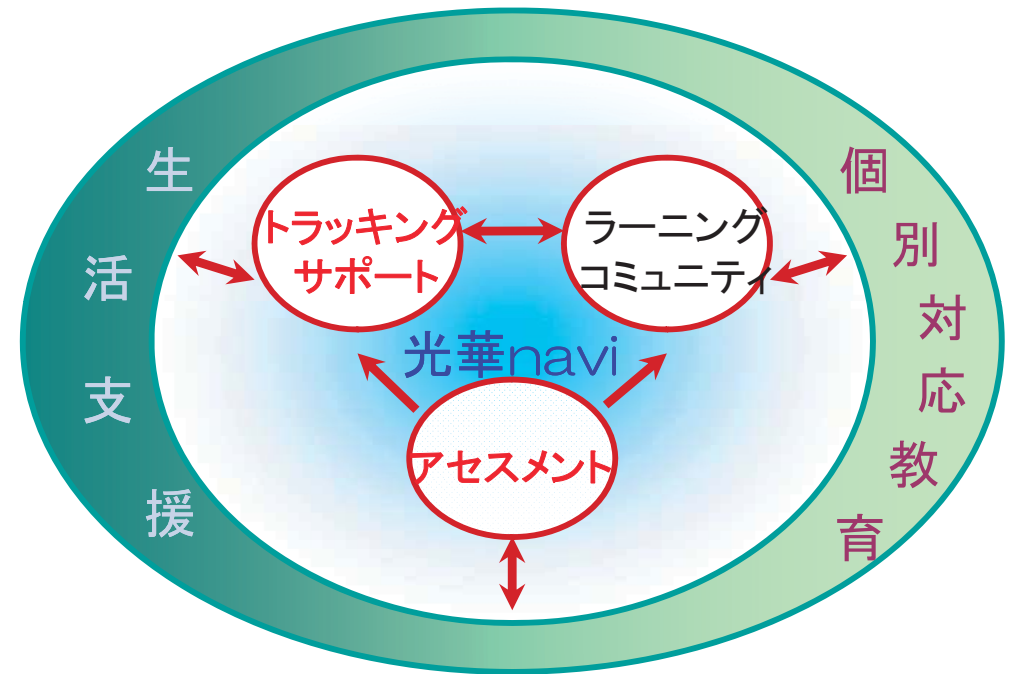
エンrollment・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合

本学では平成18年度に、学生の入学前から卒業後までを対象に一貫して教育と学生支援を組織的・体系的に展開し、満足度の高い教育サービスを実現するという総合学生支援策「**エンrollment・マネジメント (EM)**」をスタートさせた。このGPの取り組みは、これをさらに大きく前進させようとする取組である。

「学生個人を大切にした総合的支援の推進」 (取組の概要)

エンロールメント・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合

- ▶ ① アセスメントの体系化
 - ▶ ② トラッキング・サポート
 - ▶ ③ ラーニングコミュニティという3施策を有機的に接合する
- それにより、学生支援と教育モデルの統合度をさらに高め、**隙間と取りこぼしのない支援**を実現し、創発的な学生支援効果を増幅させる



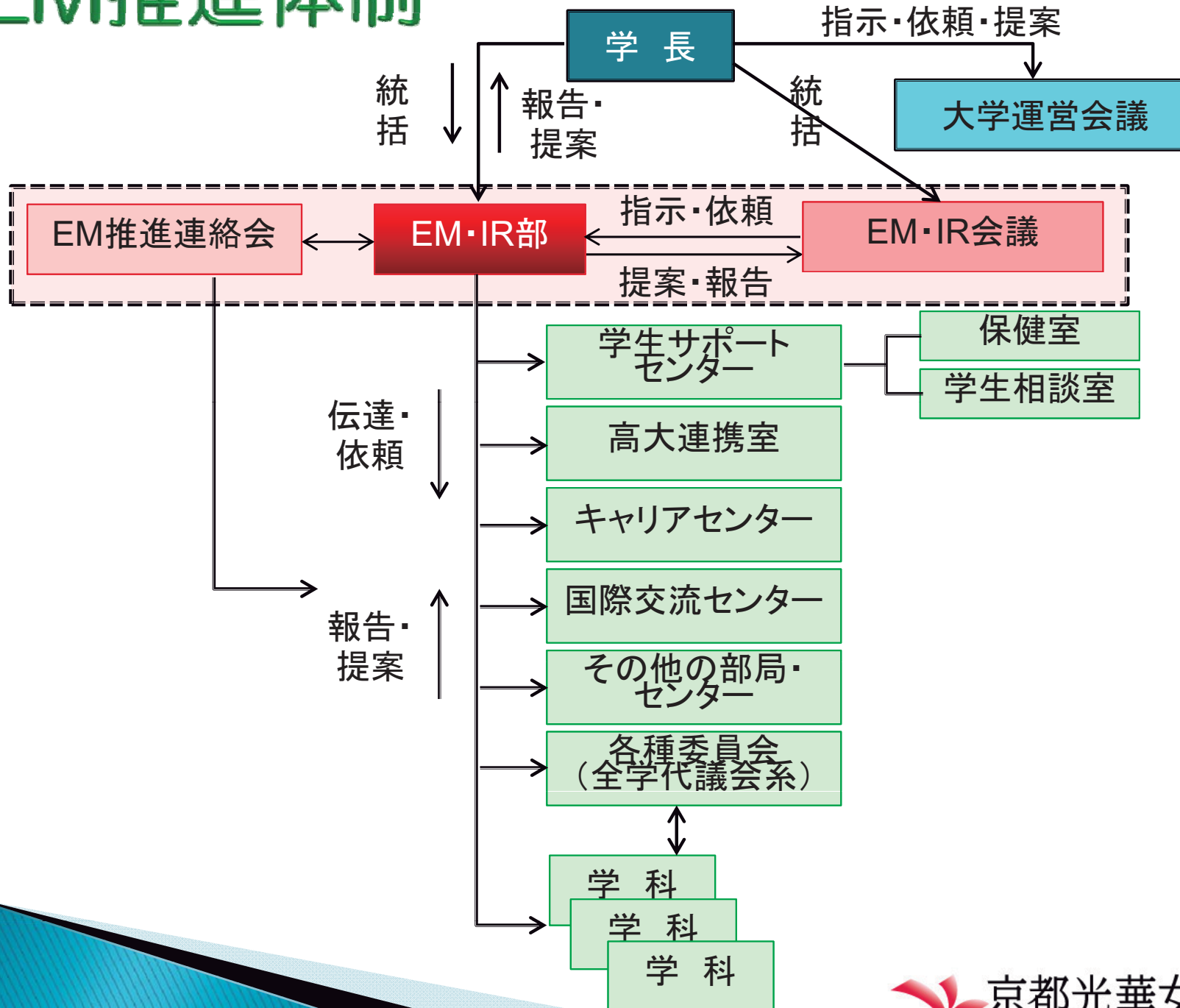
GP終了後の推進体制（教職協働）

- ▶ その必要性への理解
- ▶ 要因
 - 不可分な，教育と学生支援
 - 教職協働が必要な事項（課題）の増大と比重増
- ▶ 例
 - キャリア支援（キャリア教育と就職支援）
進路指導としての就職支援
 - 学生生活支援
- ▶ 教職協働への動き
- ▶ 教職協働組織の設置
 - キャリアセンター
 - EM推進センター → EM・IR部（教員3名，職員7名）

EM推進体制の強化と組織的取組としての徹底

- ▶ EM推進体制の強化
 - 専門部署としてEM・IR部を設置（部長は副学長）
 - EMの審議機関として学長直轄のEM・IR会議を設置
 - 実施部署との連絡・協議の会議を設置
 - EMの政策を他のすべての活動に優先させることを決定
- ▶ 組織的取組としての徹底
 - 活動の執行・報告体制の明確化
 - 活動の実施責任体制の明確化
 - PDCAの明確化

EM推進体制



実施責任体制

- ▶ 各政策の責任担当（部署），副担当，関連担当を明確化
- ▶ 各政策で実施する活動を具体化
- ▶ 活動の実施体制を明確化
 - 実施責任担当
 - 当該活動の実施を統括する。（活動状況の把握，報告を含む）
 - 実施副担当
 - 責任担当部署に協力して当該活動の実施にあたる。
 - 実施関連担当
 - 活動の実施に関連して必要となる事項に協力する。

EMの基本理念

- ▶ 入学前から卒業後まで、**教育・生活全般**に渡って学生を支援する“総合学生支援策”。
 - 個別対応教育と学生生活支援を統合した“総合学生支援”
 - ▶ これを構成する諸支援施策を（組織横断的な管理により）**総合的にマネジメント**する。
 - ▶ データ（事実）に基づいて科学的に諸施策を立案・実施・評価する。
 - IR
-
- 個々の学生支援策がEMではない
 - 総合的にマネジメントするのがEM

EMの推進

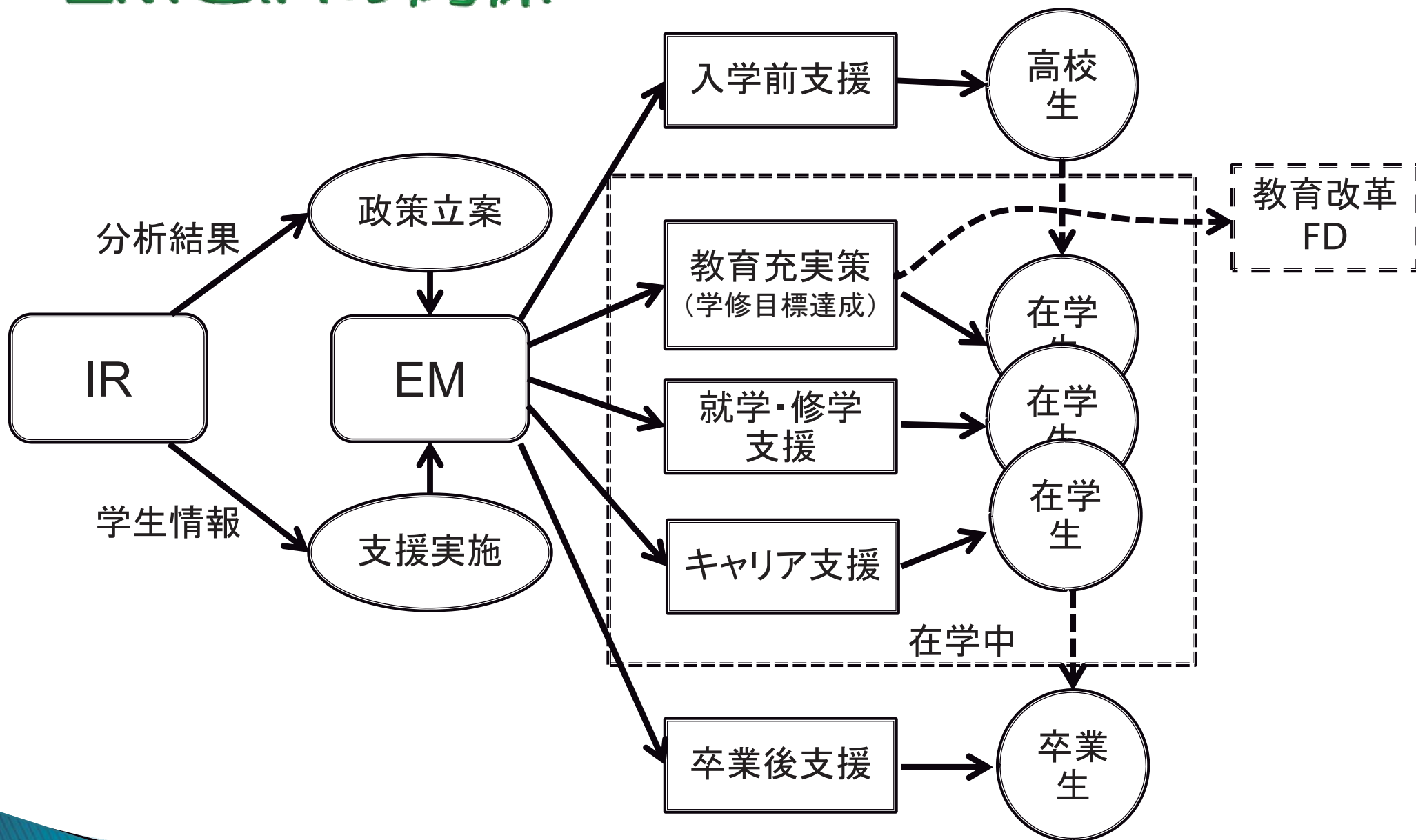
▶ EM推進の要点

- 組織的取組とするための体制と運営
- 目的達成へ向けた取組の体系化
- 徹底したデータの分析とその結果に基づく政策
⇒ IR (Institutional Research) またはEMIR

▶ EM・IR部の役割（「EM・IR部構想」より）

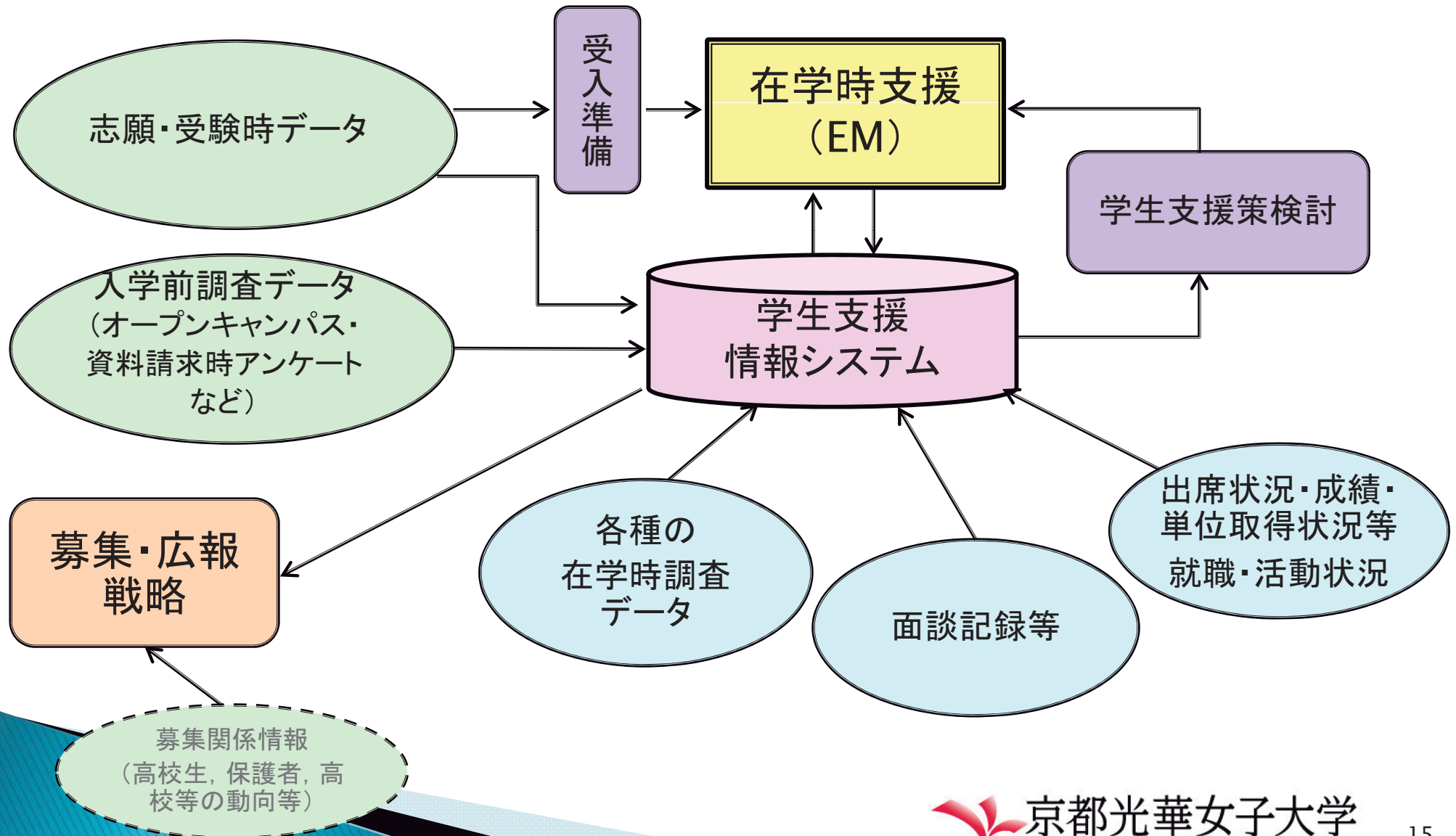
- EM活動に関する方針や重要案件に関する企画・立案及びその実施に関する統括
- EM施策の実施状況に関する進捗のフォロー（PDCAの管理）
- 施策に関する調査・分析（IR）

EMとIRの関係



「エビデンスに基づくEM」実現のためのIR

学生データと学生支援



IRで必要とする情報と調査

- ▶ 調査（情報収集）対象
 - 在学生，保護者，出身高校
 - 高校生，保護者
 - 高校，高校教員
 - 卒業生
 - 企業，行政，一般社会，周辺地域など
 - 大学
 - メディア（受験雑誌などを含む）

情報（入学生，在學生に関するもの）

時点	調査・データ	調査・収集時点				
		入学前	1年	2年	3年	4年
				短大部は2年まで		
入学前	入試成績	△				
	評定平均	△				
	欠席状況	△				
	オープンキャンパス参加状況	△				
	体験入学参加状況	△				
	入学前教育受講状況	△				
	その他	△				
新入時	プレースメントテスト		○			
	新入生調査(?)		○			
在学時	光華ライフアルバム		○	○	○	○
	授業アンケート結果		○	○	○	○
	満足度(光華ライフアルバム内)		△	○	○	○
	出欠状況		○	○	○	○
	学生カルテ(面談結果, 注意事項など)		○	○	○	○
	単位修得状況		○	○	○	○
	成績(GPA)		○	○	○	○
	自己発見レポート調査結果		○			
	キャリアアプローチ調査結果(大のみ)				○	
	就職活動状況報告				○	○
その他						
卒業時	卒業時満足度調査					○

○ 実施中
△ 計画中

具体的なIR取り組みの試行

- 事例1 退学・除籍要因の分析
- 事例2 オープンキャンパスデータの分析と戦略立案
- 事例3 授業評価アンケートの分析
- 事例4 GP分布, GPAに関する分析

その他（計画も含む）

- ・指導の精緻化と評価の厳格化についての履行状況
- ・就職状況と入学時, 在学中情報との相関分析
- ・非入学者に対する調査

事例1 退学・除籍要因の分析

▶ 目的

- 退学・除籍の入学時点の要因を抽出・評価し、退学防止のための施策を立て、学生支援を効果的に行う。

▶ 方法

- 入学時点でのデータと退学・除籍との関連を分析。
- 関連の程度から、入学時点における要支援状況を推定。

▶ 結果

- 入学時点での状況と退学の状況には関連が見られる。
- そこから支援を必要とする状況は一定の精度で推定可能と見られる。
- 推定値に基づいて有効な学生支援が行える可能性がある。

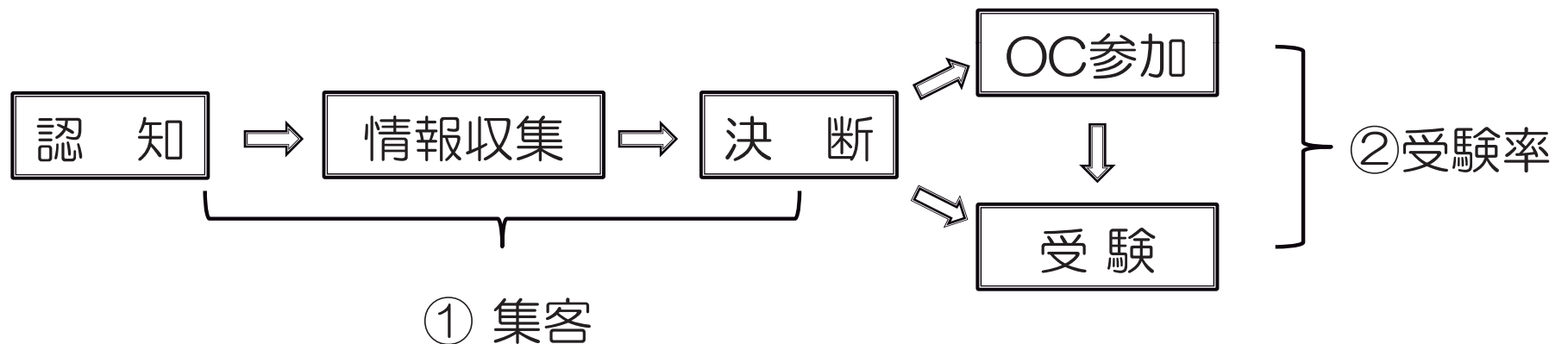
事例2 オープンキャンパスデータの分析と戦略立案

▶ 目的

- 以下の2点を達成するための戦略立案

① オープンキャンパス参加者の増加

② オープンキャンパス参加者の受験率向上



▶ データ

- オープンキャンパス参加者へのアンケート
- 志願データ
- その他

事例3 授業評価アンケートの分析

▶ 目的と方法

- 目的 授業改善, 学生の動向分析
- 方法 光華navi (Web) で実施 回収率は約2/3

▶ 分析結果

Webで実施することにより, 以下の分析を容易に実施できている.

- 出席状況との関係
 - 出席状況はIC学生証を利用した出欠管理システムで把握
 - 出席状況と評価には有意な関連が見られない.
- 成績との関係
 - 成績と評価の間には有意な関連が見られる.
- 学習意欲との関係
 - 学習意欲と評価の間には有意な関連が見られる.

事例4 GP分布, GPAに関する分析

- ▶ GPの分布に関する分析
 - 学士課程の質保証として「成績評価の厳格化」を実現することを目的に成績評価状況を調査
 - 多くの学科では正規分布に近いが、全体に評価は高い傾向
 - GPの分布に留意して到達目標の設定を行う必要があるなど、質保証へ向けて改善すべき点は多い
- ▶ GPAの経年変化の分析
 - 大半の学科で、1年前期の成績が高く、後期に下がる傾向が見られる。（その後の変化は顕著ではない）
 - 1年前期の成績評価の影響は、学生の学習姿勢に影響を与える可能性があり、さらに詳細に分析・検討する必要あり。

IR活動展開の課題

- ▶ 必要なデータがすべて提供されること
→ EM・IR部の権限（管理・運営改革の中で実現）
- ▶ 基本的にデータは学科・部局が所有
→ 必要に応じた迅速な提供体制確立が必要
分析結果を積極的に開示し、IRの意義を伝える
文化を変える（データに基づき計画立案・実行）
- ▶ 分析スタッフの不足（質・量ともに）
→ 専門スタッフの拡充
少なくともEM・IR部員全員が当事者意識を
持って参画（専門的ではなくとも各自の仮説で）

課題や問題点の大学経営への反映

▶ 本学におけるIR（基本理解）

- 学生・大学およびそれを取りまくあらゆる環境について、データをもとに徹底的にアセスメントを行い（分析・評価し）、その戦略を立てるために行う
- 募集，教育，学生生活支援，就職支援といった，大学のすべての活動において，IRで得られた結果（情報）がその戦略を検討する上で活用される
- どのような学生を迎えて，どのような教育と支援を行い，どのように社会に送り出すかをデータに基づいて科学的に考える

課題や問題点の大学経営への反映

- ▶ ある程度実現しているもの
オープンキャンパスを中心とした**募集戦略**
厳格な成績評価を中心とした**教育改革戦略**
退学防止戦略
- ▶ 検討中のもの
「学生による授業評価」の精緻な分析による
授業改善へ向けた戦略

まだ大学の戦略を総合的に検討できるまでには至っていないが、現在、IR用データの整備を進めており、これが整えばさらに、教育、就職支援といったところの戦略検討が進み、その対象が大学の活動全体に及ぶと考えている。

課題や問題点の大学経営への反映

- ▶ 本学では大学の活動はEMのもとに集約されている
- ▶ その方針を立案するのが「EM・IR部」
- ▶ 審議（教育改革も含む）は「EM・IR会議」で行われる
- ▶ IRの結果は教育改革を含むEMの方針は、ほぼEM・IR会議で決定され、実施に移される
- ▶ 大学全体の経営方針にかかわるような場合は、学長（学園理事）を通して理事会に諮られる
- ▶ EM・IR部およびEM・IR会議は副学長（教学担当）がリーダーおよび議長を務めるが、学長の直轄としており、学長のリーダーシップが直接発揮できるようになっている

- ▶ 試行錯誤しながら様々な取り組みを進めています。
ジレンマを感じながら

- 理想 VS 現実
- トップダウン VS ボトムアップ
- 全学的取り組み VS 一部の取り組み
- 理解 VS 無理解
- 目的 VS 手段
- 本気 VS ポーズ
- 学外からの評価 VS 学内の実態

本当に組織的な取り組みなのか

「やらなければならないこと」なのかどうかは
何とも言えないが、
「やった方がいいこと」であることは間違いなし
→ できることからやってみる
いろいろなことが見えてくるのは楽しい